PP3

理性とは自律的。他律的理性は本人の思考を伴わず、弱い。自律的であるからこそ自分で徹底できる。

理性の公共的使用＝学者が理性を公共的に使用している。世界市民として理性を使う。役人は法律の枠内でしか理性を称することができないが、学者は既成の法的枠組みに疑いをかけたりすることもできる。

公共哲学の歴史

20 世紀後半以降の公共哲学に決定的な影響を与えた理論家が、H. アーレントと J. ハ ーバーマスである。アーレントの理論は古代の政治思想と 20 世紀の政治的経験(大衆 社会、世界戦争、全体主義、冷戦など)を背景にしながら、普通の言葉についての独特 の構想(複数性、行為、権力など)を用いて、きわめて論争的な仕方で定式されている。 ここでは公共性との関連でとくに重要な構想のいくつかを紹介する。他方ハーバーマス は、哲学、歴史学、社会学などの知識を総動員して、道徳、法、政治についての驚くほ ど体系的な理論を展開する。アーレントからはコミュニケーション的権力という権力に ついての独特の構想を受け継いでおり、それは彼の公共性論とも密接に関連する。

Iアーレントの公共性論

アーレントにおいて公共的なものは、ほぼ「政治的なもの」と重なる。公共的なものが 何であるかは、それとは異なるものと対比されたときに明らかになる。以下ではとりわ け、「社会的なもの」、「真理」、「私的なもの」との対比を試みる。アーレントの公 共性論は一つの著作で体系的に示されているわけではないので、『人間の条件』(1958 年)、『過去と未来の間』(1961 年)、『革命について』(1963 年)、『暴力について』(1972 年)などを参照する必要がある。

1. 「社会的なもの」への批判
   1. アーレントの意図：「社会的なもの」の一元的拡張に対抗して、「政治的なもの」を救済する。
      1. 社会的なものvs 政治的なもの  
         「社会的なもの」(the social) ­– homogeneity, elimination of disparity (fundamental necessities that all people and even animals have in common)– Behavior行動  
         The political– based on plurality and emphasis on difference– Action 行為
      2. 近代は社会的なものが政治的なものを圧倒する時代である:画一性が複数性にとって代 わり、行為ではなく行動に注目が払われる。  
         ※action は活動と訳されることもあるが、この講義では行為で統一する。活動はいろい ろな生命体がなしうるが、行為は言語を使う人間に独特のものである(と少なくともア ーレントは考えていた)からである。
   2. Conformism vs plurality
      1. 「行動」の予見可能性・代替可能性:「正常」な規範を単純に反復することによるその再 生産。 「行為」の予見不可能性・代替不可能性:「新しい始まり」の世界への導入。正常化する規範の脱自然化、別様の関係の創出。

※複数性(plurality)とは、単なる量的な多数性ではなく質的な異なり、一つ一つ(一人一 人)が他に代替不可能であることを意味する。

* 1. Labor, Work and Action
     1. Labor – life – animal laborans – consumption
     2. Work – worldliness – homo faber – use
     3. Action – plurality – “men of action” - zone politikon

1. 意見の空間

アーレントの主張:公共的領域は一つの真理が制覇する空間としてではなく、複数の意見が相互に交わされる空間として描かれる。

* 1. 意見と真理
  2. 意見と共通世界
     1. 意見は何についての意見か:共通世界に対して占める各人の立場の相違、パースペクティ ヴの根源的な複数性。 共通世界とは何か:共通世界は人々を結びつけると同時に切り離す<間>である。 共通世界の「終わり」を惹き起こす条件は二つある。  
        1近さの欠如―the condition of isolation―政治的自由の喪失  
        2距離の欠如―the condition of mass society―複数性の喪失
     2. 意見はなぜ重要か:意見は一つの世界開示であり、ある意見が失われることは世界(解釈) の豊かさがその分だけ失われることを意味する。
  3. 意見(opinions)と世論(public opinion) アーレントの意図:近代社会における画一的な「いわゆる世論」を批判し、それを複数的 な意見と対比させる 意見―plurality―非共約的。「意見は開かれた議論や公共の論争の過程を通じて形成され る」(『革命について』,p. 227/368 頁)。意見はそれぞれ各人のものであり、利益や福祉と いう共約的なものとは違って集合的には代表されえない。 世論―unanimity―共約的。「全員一致的性格」を持つ。反対意見をも"unanimous"なも のとして扱う。

1. 現れの空間
   1. 現われと表象 現われ(appearance):個々の言葉・行為に応じる判断。その人が「誰」(who)であるかを 判断する。 表象(representation):集合的な属性に基づく判断。その人が「何」(what)であるかを判断 する。 ※表象は認知的負荷を軽減するための一種の防衛機制であるが、この機制が解かれること がないと他者の現われは生じない。集合的な表象(e.g. 「ユダヤ人」、「女性」など)が支 配的となることへの批判。   
      ※「諸権利をもつ権利」(『全体主義の起源』):人々が他ならぬ自らの言葉や行為によっ て他者から判断される関係性のうちに生きる権利。"displaced persons"はこの権利を奪わ れ、何を語ったか、何を行ったかとは無関係に(ただの「ユダヤ人」や「女」として)扱 われる。
   2. Appearance and Public Freedom
      1. To be free = to appear in public space = to meet other people in deed and word   
         public freedom: the freedom to appear in front of others as oneself, one’s deeds and one’s words. (not be judged by collective representations and stereotypes)